

令和7年度教員展示について

今年は「制作」というよりも「塗装」にこだわった一年でした。とくに「細かく塗る」ということに執着していたように思います。プラモデルを塗る、お菓子のおまけを塗る。毎回出品している明治安田生命主催の「大人の塗り絵コンクール」では銀賞と銅賞をいただくことができました。



塗装は主にアクリル絵の具（授業でも使っている絵の具です）を使用。それも3原色+白黒の5色があればほぼ全ての色を作り出すことができます。このことについては美術の授業で「光の3原色、色の3原色」という色を扱う単元で習ったのではないかなと思います。ただ、実際にやるかどうか別ですが、もともとアニメの背景を描く仕事をしていたので混色には自信があります。

また生成 AI による画像加工等にはまり、実際の風景におもちゃの写真を合成したり、元あった写真を絵画に仕立ててみたりという「アレンジ」も楽しみました。近いところでいうと、Oneteam に貼った年賀の画像がそうです。おそらく今後は授業に AI が入ってくることになると思いますが、まずはチャレンジしてみることに、また出来上がったものを正解とするのではなく、その先に自分なりの表現があるのだということを踏まえて、様々な表現活動に取り組んでほしいと思います。



その中でも今回は3点の作品を出展します。こだわった「塗装」と「アレンジ」についての作品をお楽しみください。

作品Ⅰ「セブンイレブンええ気分♪」

制作期間

2025 年6月

全高

約8cm

使用キット

1/1 ガンプラくんおよびザクプラくん セブンイレブン限定カラー

使用材料

U-35 アクリルガッシュ、ツヤ消しトップコート



昨年度も出品したガンプラくにセブンイレブン限定カラーが登場しました。発売後は瞬殺で、方々回ったのですがどこも売り切れ。半ば諦めていた時に、たまたま仕事で出かけた先のセブンイレブンにポツンと置いてあり即購入！とてもかわいらしい

仕上がりになっていると思います。

これに関しては、仕事が忙しすぎて、HG（ハイグレード）のガンプラすら触ることすらできなかった時に、リハビリの意味合いも兼ね、手を出したところ、思いの外楽しくサクッと作ることができたと言ったところでしょうか。こだわりは双方ともに目（ツインアイおよびモノアイ）の色味です。

作品2「今動かなきゃ、何にもならないんだ！」

制作期間

全高

2025 年6月～2025 年8月 約 230cm

使用キット

ARTPLA SCULPTURE WORKS エヴァンゲリオン初号機“暴走”

使用材料

U-35 アクリルガッシュ 半光沢トップコート、一部蛍光塗料（目とコア部分）

このキットは原外カフェの第1回「もカフェ」の打ち合わせ時に、オオゴシトモエさんからいただいた大切なものです。ARTPLA といいますが*造形師の表現をプラスチックモデルで多くの人が楽しめるようにというコンセプトでつくられたものです。可動はしない代わりに大変プロポーションがよく、組上げるだけでカッコいいです。しかし単色成型ですので塗装が必要となります。インターネットを見ると様々なアレンジで塗装されている方がいるので、各自で調べてみてください。

今回は箱絵のイメージで仕上げました。パーツごとに組み立て、合わせ目を消したのちブラックのサーフェイサーで塗装下地を作ってしまう。その後、徐々に明るい色を乗せていき、全体のバランスを取り、全てのパーツを組み上げて完成させました。実は角の部分、制作中に3度折っています。一度は塗装の感想でドライヤーの温風を当て過ぎてしまい、もとに戻そうとして破損。二度目はプラバンでパーツを成型したのですが、完成後に机の上で倒してしまいポッキリ。三度目もパーツ

成型したのですが接着中に「何か気に食わない」と自ら折ってしまいました。最終的にはメーカーに依頼、パーツを発注し四度目の正直で仕上げています。作った後に飾っていたところ、物足りなさを感じ、ジオラマにすることにしました。





←角、折れました💧二度目の写真です



↑パッケージアートです

2月の下旬を目途に仕上げています。完成したら毎年、銀座の大黒屋ギャラリーで行っているグループ展に出展する予定です。お時間あればぜひ！

*造形師・・・人形やフィギュア、模型などの立体物を制作する専門家のこと



↑パッケージアートに寄せた、制作途中のジオラマです

第 64 回デサンテ展 EXHIBITION DE SUNTE

2026.2.17 (火) ～2.22 (日)

AM11:00～PM6:00

最終日はPM5:00まで

足立 政一

奥井 伸

清水 隆一

林 孝行

宮崎 聡子

吉住 歌子

植田 悦次

梶原 文子

辻 順子

松井 祐子

森本加津子

渡部 昭

大槻 清美

木村有仁子

濱 夏子

南 由紀代

森本 芳男

「萌え出る」 梶原 文子



「海洋堂の技術は世界一いい!」

制作期間

全高

2025 年 8 月～2025 年 11 月 約 260cm (1/200 スケール)

使用キット

Sci-Fi MONSTER soft vinyl model kit collection ガラモン

使用材料

エポキシパテ、ガイアノーツ サーフェイサーエヴォブラック、U-35 アクリルガッシュ、クリアレジン、つや消しトップコート



造型物が持つ美しさをとことん追求した“ARTPLA”に魅せられた私は、ついに*ガレージキットに手を出すことになりました。また無謀なことに難易度が高いと言われるガラモンです。このキットは*ワンダーフェスティバル2025夏に参加した時に購入したものです。ソフトビニール製ですが、パーツ（特に体中から生えている突起物）の数が尋常ではなくお湯でパーツを温めては切り出し、瞬間接着剤で固定。パーツとパーツの隙間にエポキシパテを埋め、、という作業を延々と繰り返しました。

ガラモンはウルトラ Q という特撮番組に出てくる怪獣です。厳密にいうと宇宙ロボットです。こののちに放映したウルトラマンではガラモンの着ぐるみを改修しピグモンと名付けて再登場させています。よく似ていますが、劇中の設定ではガラモンが体長 40m 体重 6 万トンに対してピグモンは身長 1m 体重 10kg となっています。みんなはおそらくピグモンの方がなじみ馴染みがあるかもしれません。って知らないか(笑)



身体についている突起は120個以上。それを番号順に切って、決められた位置に貼り付けていきます。お湯で温めることでパーツが柔らかくなり、所定の位置にうまく収まってくれます。瞬間接着剤は忘れずに・・・。



ソフビのパーツ内はがらんど。脚部にはうまく立たせるためにおもりが必要とされます。今回は粘土を詰めました。パーツの隙間に埋めたエポキシパテには毒性がありあまり素手で触るのはよろしくないので、コロナで活躍した薄手のビニール手袋を使用します。全体が組みあがったところで下地処理のためのサーフェイサーを吹き、表面処理の確認を行います。



ガラモンの体表の色は様々な資料を確認しながら、自分だったら・・・という色を調色して塗り重ねました。目の部分は白目に充血した雰囲気や虹彩、ハイライトを書き込み、つや出しのトップコートを吹いています。鼻のところも湿った感じが欲しかったので同様につやを出しています。グレー系にも暖色や寒色を、赤系も何層にも色を重ね、生物感を出しています（ロボットなんですけどね）。こうして苦勞して完成させた初ガラージキット、うまくいったのではないかと思います。次は・・・ゴジラかな。

*ガラージキット・・・レジンキャストなどの素材を使い、個人やメーカーが少数生産する組み立て式の模型のこと

*ワンダーフェスティバル・・・プロ、アマチュア問わず造形作品を展示・販売する世界最大のイベント。年に2回、冬と夏に幕張メッセで開催され、フィギュアや模型の展示・販売、コスプレイベントなどが行われます。